

令和7年度

教育委員会

教育行政点検・評価報告書

(対象：令和6年度事業)

防府市教育委員会

令和7年 9月

は　　じ　　め　　に

近年、急速に進む人口減少・高齢化や技術革新・グローバル化の進展など子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。さらに今後の社会は、人生100年時代を迎えようとしており、また、超スマート社会の実現に向けた技術革新が急速に進んでいます。

こうした中、防府市教育委員会は、令和3年3月に策定された「第5次防府市総合計画」に合わせて、社会情勢の変化や施策の進捗状況を踏まえ「第2次防府市教育振興基本計画」を策定しました。

「第2次防府市教育振興基本計画」では、本市教育のめざす姿として「めざすまちの姿」と「めざす人の姿」の2つを掲げ、「21世紀をたくましく生き抜く人材の育成」を基本目標とし、5つの施策の柱に基づいた基本施策を定め、その施策に沿った取組を実施することとしています。

防府市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、令和6年度の基本施策の主な取組の執行状況について、「第2次防府市教育振興基本計画」の施策体系に沿って自己評価を行い、学識経験者をはじめとする3人の外部評価者から意見を求め、教育行政点検・評価報告書を作成しました。

本市における教育の基本施策に沿った各取組がどのように展開され、どのような進捗状況にあるのかを、この報告書を公表することにより、市民への説明責任を果たすとともに、市民に信頼される教育行政の推進を図ってまいります。

目 次

■ 点検・評価基準について	1
■ 第2次防府市教育振興基本計画 基本施策の体系	3
■ 令和6年度事業 評価結果	7
I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進	
II 地域ぐるみの教育の推進	
III 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進	
IV 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進	
V 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進	

<基本施策の評価>

I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進	
① キャリア教育の推進	13
② 確かな学力の育成	15
③ 社会の変化に対応した教育の充実	17
④ ICT環境の整備と学習活動の充実	18
⑤ 学校図書館の充実と読書活動の推進	20
⑥ 心の教育の充実	21
⑦ 生徒指導・相談体制の充実	22
⑧ 健康教育の推進	23
⑨ 安全・安心な学校給食の推進	24
⑩ 特別支援教育の充実	25
⑪ 幼児教育の充実	27

Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進	
① 地域とともにある学校づくりの推進	28
② 青少年の健全育成	29
Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進	
① 生涯学習機会の充実	31
② 生涯学習を支える人材の育成と活用	33
③ 人権学習の推進	34
④ 生涯学習の拠点となる施設の充実	35
⑤ 図書館の充実と読書活動の推進	36
Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進	
① 安全・安心な施設整備、教育環境の確保	38
② 学校安全の推進	39
③ 校種間連携・小中一貫教育の推進	41
④ 教育機会の確保	42
⑤ 学校における働き方改革の推進	44
⑥ 教職員の資質能力の向上	45
Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進	
① 文化財の保存	46
② 文化財の活用	48

■ 学識経験者の総評	50
------------	----

■ 点検・評価基準について

1 点検・評価の目的

第2次防府市教育振興基本計画（以降「基本計画」）の基本施策に沿って、広範かつ専門的な教育行政事務が効果的に執行されているかを自らが事後にチェックし、その活動を改善するとともに市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

2 点検・評価の対象

基本計画に掲げる基本施策の事務事業の実施状況とします。

3 点検・評価の方法

基本計画に掲げる5つの基本施策について、事業実施状況（実績等）を踏まえ評価を行いました。

まず、各基本施策の主な取組ごとに、前年度の実施状況（実績や課題等）を元に、「到達度」、「事業効果」、「効率性」、「方向性」の視点から評価し、評点の合計により取組状況を4段階で示しました。次に、その取組状況と目標指数の達成状況から総合的に判断し、基本施策の評価を行いました。

《事務事業の評価の視点と点数》

評価 評価の 視点 点数	到達度	事業効果	効率性	方向性
	・事務や事業の達成状況 ・課題等への対応状況	・事業の有効性 ・本市教育への寄与度合	・投入資源（経費、人材、時間）の妥当性 ・経費削減の工夫	・今後の事業展開方針
4点	事業を計画どおり実施し、事業の課題や改善策、懸案事項について十分な対応ができた。	事業効果が非常に高く、他事業にも良好な波及効果を生じさせた。	経費削減の工夫がなされ、費用対効果が高かった。	有益な事業であるため、今後、事業を拡充して実施する
3点	概ね計画どおりに事業を実施できた。	事業実施により期待どおりの事業効果があった。	事業内容に相応の投入資源で、効率的に事業を実施できた。	今後も継続して事業を実施する。 又は、事業目的を達成したため事業を終了する。
2点	事業の実施状況にやや不十分な面があった。	期待していた事業効果にはやや達しなかった。	一定の事業効果を得るために必要以上の投入資源を要した。	事業内容の見直しが必要である。 又は、今後、事業を縮小する。
1点	計画していた事業の一部しか実施できなかった。	事業効果が低かった。	事業の効率性が低かった。	今後、事業を廃止する。

《事務事業の取組状況》

取組状況	評価点数の合計
AA	15 点以上
A	14～12 点
B	11～9 点
C	8～4 点

《基本施策の評価目安》

評価	評価の判断
優良	計画・目標を上回る成果を得たとき
良好・順調	計画・目標どおりの成果を得たとき
努力	計画・目標を若干下回る成果を得たとき
反省	計画・目標を大幅に下回る成果を得たとき

基本施策の体系

施 策 の 柱	基 本 施 策
Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進	①キャリア教育の推進
	②確かな学力の育成
	③社会の変化に対応した教育の充実
	④ICT環境の整備と学習活動の充実
	⑤学校図書館の充実と読書活動の推進
	⑥心の教育の充実
	⑦生徒指導・相談体制の充実
	⑧健康教育の推進
	⑨安全・安心な学校給食の推進
	⑩特別支援教育の充実
	⑪幼児教育の充実
Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進	①地域とともにある学校づくりの推進
	②青少年の健全育成

主 な 取 組	担当課
◆計画的な進路指導の充実	学校教育課
◆小・中・高連携によるキャリア教育の推進	学校教育課
◆体験的な学習活動の推進	学校教育課
◆小・中の連携及び家庭・地域との連携強化	学校教育課
◆志を抱かせる教育の推進	学校教育課
◆児童生徒の実態に応じた指導計画の作成	学校教育課
◆指導体制の充実	学校教育課
◆「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進	学校教育課
◆学習習慣の確立	学校教育課
◆英語教育の充実	学校教育課
◆プログラミング教育の充実	学校教育課
◆環境教育の充実	学校教育課
◆高速大容量ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備	学校教育課
◆大型提示装置の整備	学校教育課
◆ICT活用のための多様な人材活用	学校教育課
◆教職員研修の充実	学校教育課
◆多様な学習活動の推進	学校教育課
◆読書・学習活動の充実	学校教育課
◆関係機関との連携による学校図書館活動の充実	教育総務課
◆学校司書の配置	教育総務課
◆道徳教育の充実	学校教育課
◆体験活動の充実	学校教育課
◆人権教育の充実	学校教育課
◆伝統や文化に関する教育の充実	学校教育課
◆開発的な生徒指導の推進	学校教育課
◆学校内外と連携した問題行動への対応	学校教育課
◆きめ細かな不登校対策の推進	学校教育課
◆緊急時等の学校への支援体制の充実	学校教育課
◆体力向上のための望ましい運動習慣の定着	学校教育課
◆健康な生活を送ろうとする実践力を育てる指導の充実	学校教育課
◆食に関する指導の充実	学校教育課
◆食育の推進	学校教育課
◆使用食材の安全性確保と地産地消の推進	学校教育課
◆食物アレルギーへの対応	学校教育課
◆安全・安心な給食の提供	学校教育課
◆早期からの切れ目のない支援体制の充実	学校教育課
◆特別支援教育の視点を取り入れた通常の学級の授業改善	学校教育課
◆特別支援学級における教育の充実	学校教育課
◆校内教育支援体制の充実	学校教育課
◆特別支援教育に関する広報活動の充実	学校教育課
◆幼保・小の連携の推進	学校教育課
◆子育てに関する相談体制の充実	学校教育課
◆乳幼児機関への支援の充実	学校教育課
◆コミュニティ・スクールの円滑な運営	学校教育課
◆地域協育ネットの推進	生涯学習課
◆広報活動の充実	学校教育課
◆家庭教育機能の強化	生涯学習課
◆非行・問題行動の防止活動や有害な環境の改善活動	生涯学習課
◆青少年活動の推進	生涯学習課
◆子どもの安全・安心対策	生涯学習課

施 策 の 柱	基 本 施 策
Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進	①生涯学習機会の充実
	②生涯学習を支える人材の育成と活用
	③人権学習の推進
	④生涯学習の拠点となる施設の充実
	⑤図書館の充実と読書活動の推進
Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進	①安全・安心な施設整備、教育環境の確保
	②学校安全の推進
	③校種間連携・小中一貫教育の推進
	④教育機会の確保
	⑤学校における働き方改革の推進
	⑥教職員の資質能力の向上
Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進	①文化財の保存
	②文化財の活用

主 な 取 組	担当課
◆生涯学習情報発信の充実	生涯学習課
◆多様な学習機会の提供	生涯学習課
◆生涯学習相談体制の充実	生涯学習課
◆産学公民の教育ネットワークの強化	生涯学習課
◆生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実	生涯学習課
◆ほうふ幸せます人材バンクの充実	生涯学習課
◆学習成果発表の機会づくり	生涯学習課
◆社会教育関係団体や各種ボランティア団体への支援	生涯学習課
◆市民ぐるみの積極的な推進	生涯学習課
◆推進体制の充実	生涯学習課
◆人権学習への支援	生涯学習課
◆公民館の整備・充実	生涯学習課
◆公民館活動の推進	生涯学習課
◆青少年科学館の充実	生涯学習課
◆図書館資料の質・量両面の充実	教育総務課
◆図書館利用者サービスの充実	教育総務課
◆図書館事業への市民参画の促進と活用	教育総務課
◆様々な教育文化施設との連携の推進	教育総務課
◆集会・文化活動及び広報活動の推進	教育総務課
◆「防府市子ども読書活動推進計画」に基づく子どもの読書活動の推進	教育総務課
◆学校施設の整備	教育総務課
◆学校施設非構造部材の耐震化	教育総務課
◆学校教材の整備	学校教育課
◆児童生徒の危機予測・回避能力の向上	学校教育課
◆機能する危機管理体制の確立	学校教育課
◆地域・家庭と連携した学校安全体制の整備	学校教育課
◆防災教育と防災管理を一体的に捉えた、学校防災の充実	学校教育課
◆感染症拡大防止体制の確立	学校教育課
◆幼保・小・中・高の校種間の連携強化	学校教育課
◆小・中9年間を見通した小中一貫教育の推進	学校教育課
◆経済的支援の充実	学校教育課
◆修学支援の充実	教育総務課
◆私立高等学校への支援	学校教育課
◆地理的条件の解消	学校教育課
◆教育支援の充実	学校教育課
◆業務の見直しと効率化	学校教育課
◆勤務体制の改善	学校教育課
◆学校支援人材の活用	学校教育課
◆教職員研修の充実	学校教育課
◆学校内の人材育成	学校教育課
◆文化財調査の推進	文化振興課
◆文化財保護活動への支援	文化振興課
◆文化財の保存・管理の充実	文化振興課
◆文化財の修復	文化振興課
◆情報発信の充実	文化振興課
◆文化財関係施設の整備と活用	文化振興課
◆文化財を活用した学習機会の提供	文化振興課
◆地域等の歴史文化継承への支援	文化振興課

I 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

施策名	① キャリア教育の推進	13ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組とも計画通り順調に進められている。 こどもたちの自己肯定感は徐々に向上しており、将来の夢や目標につながるようキャリア教育の更なる推進が必要である。			
施策名	② 確かな学力の育成	15ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 全国学力・学習状況調査の正答率の全国比は上昇に転じており、今後も課題を抽出し授業改善に取り組み、学力向上に努める必要がある。			
施策名	③ 社会の変化に対応した教育の充実	17ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できている。 引き続きA L Tの効果的な活用や研修の実施、チームD A S Hによる研究成果の活用など、全体の指導力の向上を図っていく必要がある。			
施策名	④ ICT環境の整備と学習活動の充実	18ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できている。 タブレットの活用は、I C T活用教育専門員及びI C T活用教育推進員の支援や、チームD A S Hによる会議・研修等により、導入以降かなり進んでおり、引き続き学習活動での活用と、ハード更新をはじめとする環境整備を進める必要がある。			
施策名	⑤ 学校図書館の充実と読書活動の推進	20ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 読書をする児童生徒の割合は2年連続で増加しており、貸出冊数についても上昇に転じた。 引き続き学校司書や学校図書館コーディネーターを配置し、学校や図書館担当教諭との協働、市立図書館との連携を進め、児童生徒の読書活動の推進を図る必要がある。			
施策名	⑥ 心の教育の充実	21ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できている。 引き続き、こどもたちの文化活動の発表・交流の場をもつことにより、伝統や文化に関する教育機会の創出に取り組んでいく必要がある。			
施策名	⑦ 生徒指導・相談体制の充実	22ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できているが、不登校やいじめ等の相談が増加傾向にあるため、関係機関等との連携を強化し、早期発見・早期対応を図っていく必要がある。			
施策名	⑧ 健康教育の推進	23ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できている。 山口県体力テストの総合評価がC以上の児童生徒の割合は2年連続で上昇しており、引き続き、児童生徒の体力向上・運動習慣定着に向けた取組を進める必要がある。			
施策名	⑨ 安全・安心な学校給食の推進	24ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できている。 地産地消導入率は目標値を超える水準を維持しており、安全性の確保にも努めている。 今後は、老朽化した設備等の更新を計画的に進める必要がある。			

施策名	⑩ 特別支援教育の充実	25ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 今後も、特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに合った学習環境の提供に努める必要がある。			
施策名	⑪ 幼児教育の充実	27ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 引き続き関係者間の連携を推進していく必要がある。			

外部評価者の意見	全体的には良好であると思うが、「将来の夢や目標を持っていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」（いずれも全国学力・学習状況調査）という問いに対する回答が、基準年である令和元年度よりも低下していることが気になる。 担当課における「主な取組」が、各学校において目標指標の向上を意識したものに繋がったものになっていくことを期待したい。
外部評価者の意見	不登校・いじめの相談件数が増加している中で、オアシス教室の充実、ステップアップルームの開設、相談員や少年安全サポーター等の活動が充実してきている。 学力向上については、全国学力・学習状況の正答率の結果から、教科ごとの課題となる内容を抽出して授業改善にとりくんだ成果が現れている。 キャリア教育を進めるに当たっては、人生の夢や目標につながる様々な体験活動を通して、自己肯定感を向上させることが大切である。
外部評価者の意見	タブレット活用をはじめて5年程度たつが、ICT活用学習の検証を行うべきと感じている。 こどもたちの学力、体力を全国平均と比較することも重要だが、過去と比較することも重要だと感じる。

Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進

施策名	① 地域とともにある学校づくりの推進	28ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 引き続き、保護者や地域住民等の学校運営への参画と連携を促し、特色のある学校づくりを推進するため、コミュニティ・スクールの充実に努める必要がある。			
施策名	② 青少年の健全育成	29ページ	評価結果	良好・順調
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 引き続き、関係機関・団体と連携しながら、家庭教育機能の強化や健全育成のための各種活動に取り組む必要がある。			

外部評価者の意見	基本施策のうち、①地域とともにある学校づくりの推進は概ね良好であるものの、②青少年の健全育成の目標指標である「子ども110番の家」設置箇所数は基準年である令和元年度の数字を下回っている。その理由が分析的に記述されていれば、よりよかったのではないだろうか。加えて、青少年の健全育成を地域ぐるみで推進していく場合、「子ども110番の家」の設置箇所を目標指標とすること自体、次回改定時には検討し直されてもよいように思う。
外部評価者の意見	学校運営協議会は年度ごとの積み重ねにより円滑に実施されている。 しかしながら、委員の交代が少なく、活発な意見交換がなされているとはいえない面がある。 児童生徒を交えた熟議の実施など、学校・地域・保護者の協力体制が深まっている。家庭教育支援チームによる子育て広場や、赤ちゃんとのふれあい体験の活動が定着している。 「子ども110番の家」のさらなる周知と設置箇所の増加に努めていただきたい。
外部評価者の意見	防府市は各団体活動が比較的充実していると思うが、連携や、時代に即した活動に弱点を感じる。 子ども110番の家の設置箇所を増やすと共に、より効果的な場所を模索すべき。

Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

施策名	① 生涯学習機会の充実	31ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できている。 関係機関に講座開設を働きかけ、聞いて得するふるさと講座の実施回数が着実に伸びるなど、生涯学習機会の充実に努めている。			
施策名	② 生涯学習を支える人材の育成と活用	33ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 生涯学習指導者バンク登録者の派遣回数は目標値を超えて推移している。 一方、生涯学習ボランティア養成講座の参加者や指導者バンク等の登録件数は減少しており、人材の確保に努める必要がある。			
施策名	③ 人権学習の推進	34ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できている。 人権学習に関する研修会、講演会等の回数は増加しており、引き続き、市民の関心を高めるため、各種媒体を使って周知を図る必要がある。			
施策名	④ 生涯学習の拠点となる施設の充実	35ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できている。 ソラールについては、企画展の成功により過去最高の入館者数を記録した。 今後も、市民のニーズに沿った講座や企画展の開催等により生涯学習の推進と科学技術の知識の普及啓発に努める必要がある。			
施策名	⑤ 図書館の充実と読書活動の推進	36ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画どおり実施できている。 様々な関係機関と連携した新たな企画の実施や、利用者ニーズに合わせて電子書籍の拡充を行うなど、特色のある取組を実施している。 引き続き、利用者ニーズに対応した幅広い資料の充実・整備、サービスの提供に努める必要がある。			

外部評価者の 意 見	「聞いて得するふるさと講座」、「生涯学習指導者バンク」、「ソラール入館者数」は、すでに令和7年度の目標値を超える成果をあげている。 他方、「図書館館外個人貸出者数」は基準年である令和元年度よりも低下している。図書館関係の各取組が計画どおり順調に実施されているにもかかわらず、それが図書館の充実と読書活動の推進という基本施策の目標指標に直結するものではないことについては、次回改定時に検討し直されてもよいように思う。
外部評価者の 意 見	生涯学習ボランティア養成講座への参加者が減少している。参加者の増加に加えて修了者の活動の場が必要であろう。 さまざまな人権問題をテーマにしてセミナーや講演会が実施されている。また、人権学習指導員が学校等から数多く要請され、好評を得ている。 公民館の施設整備は順調に進められている。市民の生涯学習の場として、魅力ある講座や学級・教室の開催が望まれる。
外部評価者の 意 見	防府市の生涯学習環境は大変恵まれており、充実している。 ホームページやSNSを活用しPRに力を入れ、施設やイベント、サービスの告知の充実を図って欲しい。

IV 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

施策名	① 安全・安心な施設整備、教育環境の確保	38ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画通り実施できている。 学校施設の長寿命化改良や非構造部材の耐震化に加え、トイレ洋式化を行い学習環境の向上に努めた。			
施策名	② 学校安全の推進	39ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組とも順調に進められている。 関係機関や地域等と連携し、安全教育や防災教育を実施することができた。 毎年のように猛暑となっているため、油断なく熱中症対策を行うことが求められる			
施策名	③ 校種間連携・小中一貫教育の推進	41ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組とも順調に進められている。 校種間での情報交換を積極的に行うことで、児童生徒の円滑な接続を図ることができた。			
施策名	④ 教育機会の確保	42ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については順調に進められている。 物価高騰に対応して新たな奨学金制度の創設を行った。 引き続き、様々な困難や課題を抱えている家庭や児童生徒に対し、経済的支援や教育支援に努める。			
施策名	⑤ 学校における働き方改革の推進	44ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組とも計画どおり実施できている。 統合型校務支援システムの本格導入や出退勤管理システムの運用改善により、働き方の改善が図られた。			
施策名	⑥ 教職員の資質能力の向上	45ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画通り実施できている。 今後も研修体制の工夫などにより、教職員の資質能力の向上を図ることが求められる。			

外部評価者の 意見	いずれの基本施策も順調・良好に進んでいる。ただし、令和7年度における目標値を見据えた場合、「小中学校屋内運動場の天井器具等の落下防止対策実施割合」、「家庭・地域と連携した防災訓練を実施した学校の割合」は、いずれもさらなる向上が求められる。いずれも、安全・安心に教育活動を行ううえで欠かすことのできない取組であることから、確実な実施を強く求めたい。
外部評価者の 意見	防災訓練では、家庭・地域の連携に加えて、校種間（幼保・小・中）も必要である。 感染症や熱中症対策については、引き続き各施設で実施することが必要。 小中合同研修会がすべての中学校区で実施され、教職員の授業力、児童生徒の学習スタイルなどのなめらかな接続が実現している。 小規模特認校制度は本市の大きな特色である。通学生への経済的支援と教育環境の整備の充実が望まれる。
外部評価者の 意見	こどもたちの能力や環境に合わせた学習の提供の為に、経験豊富な教職員の活用、AIの活用を加速して欲しい。 質の高い授業を求める為に、実際に授業を受けるこどもたちに対し、より具体的なアンケートの実施を行って欲しい。

V 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

施策名	① 文化財の保存	46ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組について計画通り実施している。 今後も開発行為にかかる発掘調査と調整を図りつつ、優先順位を定めて文化財の調査を進める必要がある。			
施策名	② 文化財の活用	48ページ	評価結果	良好・順調
評価 コメント	各取組については計画通り実施している。 引き続き、魅力ある取組を企画し、観光分野と連携しながら、文化財関係施設の利用促進や学習機会の提供に努めていく必要がある。			

外部評価者の 意見	概ね順調に推進されていると思われる。ただし、文化財の活用という基本施策の目標指標のひとつである「地域で開催される文化財に関する講座等への講師派遣回数（年間）」については6回であり、基準となる令和元年度の36回、目標年度である令和7年度の45回に比べると大きな開きがある。報告書内においてもその説明があるとよいのではないだろうか。
外部評価者の 意見	文化財の宝庫である本市の取組は高く評価される。 とくに観光分野との連携が強化されている。市外・県外から観光で訪れる人が多い。中学生は防府探訪を実施している。 中学1年生に配られている「防府歴史・文化財読本～防府学入門～」の活用と周知が望まれる。 青少年科学館ソラールの企画展と連携した体験会は市民にとって興味深い。学校への出前授業も期待したい。
外部評価者の 意見	各学校区の伝統文化活動をこどもたちが体験・参加・継承できる体制作りが急務であると感じる。 又、郷土の文化や歴史に触れる体験活動の推奨を行うと共に、地域・学校・家庭が連携して、時間と空間（イベント等）を作って欲しい。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	① キャリア教育の推進	整理番号	I－①	
基本施策の方針	○ 児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢や志を育むよう、教育活動全体を通じて、発達段階に応じて系統的・計画的な指導を推進します。 ○ 学校と家庭、地域、産業界等との連携体制を強化し、小・中・高等学校等の全教職員がキャリア教育についての共通理解をさらに深めるとともに、体験活動等の一層の充実を図ります。 ○ 将来、直面するであろう様々な課題に柔軟に、かつ、たくましく対応し、社会人として自立していくための意欲や態度、能力を育みます。就学前の幼児教育から小学校教育へのなめらかな接続を図ります。			
目標指標	「自分には、よいところがあると思う」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		小37.2% 中27.1%	小41.5% 中40.6%	小80% 中80%
	「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		小66.6% 中39.7%	小62.4% 中37.1%	小80% 中80%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 計画的な進路指導の充実 【学校教育課】	○ 職場見学や職場体験学習を実施した。(小学校17校、中学校11校) ○ 全ての小・中学校でキャリア教育全体計画を作成し、基礎的・汎用的能力の育成を目指して、キャリア教育を系統的・計画的に実施した。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	14	
		評価	A	
(2) 小・中・高連携によるキャリア教育の推進 【学校教育課】	○ 市内共通のキャリアパスポート「夢ノート」を作成し、校種間で確実に引き継いだ。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	14	
		評価	A	
(3) 体験的な学習活動の推進 【学校教育課】	○ 職場見学や職場体験学習を実施した。(小学校17校、中学校11校) ○ 「ほうふみらい塾」を開催し、青年会議所や地元企業、市役所職員の協力を得て、社会見学並びに体験学習を充実させた。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
(4) 小・中の連携及び家庭・地域との連携強化 【学校教育課】	○ 地域連携教育アドバイザー、指導主事及び社会教育主事が、学校運営協議会において、学校支援や地域貢献等を中心とした地域連携のあり方について助言した。 ○ 児童生徒を交えた協議の場「熟議」を実施し、学校・家庭・地域の連携を進めた。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	13	
		評価	A	
(5) 志を抱かせる教育の推進 【学校教育課】	○ 小学校で「1/2成人式（10歳のつどい）」、中学校で「立志式」を実施した。 (小学校:16校 中学校:11校)	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	4	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組とも計画通り順調に進められている。 こどもたちの自己肯定感は徐々に向上しており、将来の夢や目標につながるようキャリア教育の更なる推進が必要である。			

課題及び今後の取組

施策の推進に あたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 進路未定のまま卒業した生徒もいるため、進路決定が危ぶまれる生徒に対して早い段階から相談を行う等、よりきめ細かなキャリア教育を推進していく。
	(2) 児童生徒一人ひとりが夢や志をはぐくむことができるように、小・中・高等学校等の全職員がキャリア教育について共通理解を図り、連携する。
	(3) 職場見学・職場体験等の実施状況の把握に努め、商工会議所や、やまぐち教育応援団の協力も得ながら、市内外の各事業所におけるさらなる職業体験学習の充実を図る。
	(4) 学校と地域が小・中学生を交えたビジョンを共有し、学校課題の解決に向けた熟議を行う。また、学校運営協議会で協議し、地域教育ネットの仕組みを生かして、取組の実現を目指す。 引き続き地域連携アドバイザー、指導主事及び社会教育主事による助言や研修会等を実施する。
	(5) 児童生徒にとって自分自身の夢の実現や志について、より深く考えられる機会となるよう、学校運営協議会委員や地域の方等を交え、地域と連携した1/2成人式（10歳のつどい）・立志式を実施する。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	②確かな学力の育成	整理番号	I－②	
基本施策の方針	○ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実を図ります。 ○ 教科等横断的な視点やキャリア教育の視点に立った学力向上の推進体制を構築します。 ○ 学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動を展開していきます。 ○ 校種間の連携を図った教育課程の編成を行います。			
目標指標	全国学力・学習状況調査の正答率の全国比	基準 令和元年度 小+1.3pt 中-1.5pt	実績 令和6年度 小+1.0pt 中-1.7pt	目標 (令和7年度) 全国平均以上

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 児童生徒の実態に 応じた指導計画の 作成 【学校教育課】	○ 全国学力・学習状況調査とやまぐち学習支援プログラム「4月 確認問題」を4月に、山口県学力定着状況問題を10月に実施 し、結果分析を行い、授業改善を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	13	
		評価	A	
(2) 指導体制の充実 【学校教育課】	○ 教員の指導力向上を図るための研修会や学力向上推進室長によ るスーパーバイザー訪問を行った。また、少人数加配教員とし て、小・中における提案型、小中連携型、小学校専科(英語以 外)、学力向上支援員等をのべ10校に配置し活用した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	13	
		評価	A	
(3) 「主体的・対話的 で深い学び」の実 現をめざした授業 改善の推進 【学校教育課】	○ 授業終末の「振り返り」の内容をもとに、授業改善を行った。 ○ 各校において授業づくりに関する校内研修を実施した。 ○ 「学力向上プロジェクト」において、防府市の課題を基に学力 向上に向けた取組について協議し、市内の学校へ発信した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 学習習慣の確立 【学校教育課】	○ 学校だより等で児童生徒の学習状況について周知し、家庭学習 の充実について涵養を図った。 ○ 夏季休業中や放課後は、地域の方や中学生による学習支援を実 施した。 ○ ドリルアプリやデジタル教科書等一人一台にタブレット端末を 活用した学習習慣の定着を促進した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 全国学力・学習状況調査の正答率の全国比は上昇に転じており、今後も課題を抽出し授業 改善に取り組み、学力向上に努める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進に あたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 各種調査の分析をもとに学力課題分析シートを作成し、課題を洗い出し、学校全体で授業改善を図る。児童生徒個々の課題に応じた、学び直し・補充学習を展開する。
	(2) 多様な教育課題に対応できるよう教員の指導力向上を図るために、研修会の質の向上が必要である。また、スーパーバイザー訪問の指導内容を本人だけでなく、学校全体に波及させる必要がある。
	(3) 「振り返り」だけでなく、「見通し」も意識した授業改善が必要である。また、各校において、学力向上プランを意識した取組を全校体制で推進する必要がある。
	(4) コミュニティ・スクールの機能を生かし、引き続き学習保障の場への地域や中学生の協力を得られるようにする。 児童生徒が授業内容と関連した家庭学習を自律的に行えるよう、学習の仕方や生活習慣等を継続して指導する必要がある。 また、学習習慣の定着に向け、タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習指導の好事例を周知する必要がある。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	③社会の変化に対応した教育の充実		整理番号	I－③
基本施策の方針	○ 外国語教育や国際交流などの異文化体験の機会を充実し、「語学力・コミュニケーション能力」「主体性・積極性」「異文化に対する理解」を兼ね備えたグローバル人材の育成を図ります。 ○ プログラミング的思考を育む教育を推進し、目的に応じた問題解決を行うことができる人材育成に取り組めます。 ○ 環境保全やより良い環境の創造のために、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことができる人材育成に取り組めます。			
目標指標	CEFR A1レベル（英語検定3級）相当以上を取得している生徒の割合	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		16.1%	50.0%	40%
	英語（外国語）科の年間総授業数に対してALTを活用した授業時間数が20%以上の学校の割合	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		小74.0% 中74.0%	小81.3% 中81.8%	小100% 中100%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 英語教育の充実 【学校教育課】	○ J E TプログラムによるA L T 11人を小・中学校に派遣した。 ○ 小学校では外国語活動・外国語科を中心に、また中学校では全学年の英語の指導補助やLESSONプラン作成等の教材研究補助を行った。 ○ 音声教材や会話の動画を活用し、目的・場面・状況を意識した学習を展開した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) プログラミング教育の充実 【学校教育課】	○ I C T機器やmB o t（プログラミング学習用ロボット）等を活用し、教科横断的なプログラミング教育を推進した。 ○ I C Tを活用した教育活動の推進に向けて、プロジェクトチーム（チームD A S H）による研究を実施した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 環境教育の充実 【学校教育課】	○ 二酸化炭素の排出量削減を身近な生活の中で実践するなど、子どもたちの環境意識の醸成を図った。 ○ 給食用牛乳パックのリサイクルを実践し、環境問題について考え、リサイクル量に応じたトイレットペーパー及びメモ帳を受け取ることにより、環境教育の充実を図った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 引き続きA L Tの効果的な活用や研修の実施、チームD A S Hによる研究成果の活用など、全体の指導力の向上を図っていく必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 授業における、児童生徒の英語による言語活動の充実に向けた授業改善について研究を促進するとともに、A L Tを効果的に活用することで、児童生徒の英語学習に対する意欲の向上や英語によるコミュニケーション力の向上を図る。
	A L Tの指導力向上に向け市主催の研修（オンライン）を実施する。
	(2) 情報活用能力の育成に向けて効果的な研修を実施する必要がある。
	(3) 児童生徒が主体的に環境問題に関わろうとする態度と意識の高揚に向けて、ほうふっ子エコスクール事業の推進に努める。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	④ICT環境の整備と学習活動の充実		整理番号	I－④
基本施策の方針	○ GIGAスクール構想の実現に向けて、ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備を行います。 ○ ICT機器が効果的に活用されるための環境整備や人的支援を行います。 ○ ICT機器を適切に運用するための人材育成を行います。 ○ 日常的にICT機器を活用した教育活動を行うことで、超スマート社会と言われるSociety5.0の時代を豊かに生き抜く力を育成します。			
目標指標	「小5、中1、中2のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という設問に「ほぼ毎日」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 (令和7年度)
		小10.2% 中8.3%	小47.2% 中68.9%	小80% 中80%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 高速大容量ネットワーク通信環境の整備とタブレット端末の配備 【学校教育課】	○ 児童生徒一人一台のタブレット端末の維持管理等を行い、授業で活用できるようにすることで、情報活用能力の育成を図った。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
(2) 大型提示装置の整備 【学校教育課】	○ 大型提示装置の維持・管理を行った。 ○ R7～8年度の更新に向けて準備をした。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
(3) ICT活用のための多様な人材活用 【学校教育課】	○ ICT活用教育専門員及びICT活用教育推進員による各小・中学校への定期訪問や、授業支援や校内研修の補助を行い、一人一台端末の活用推進を図った。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
(4) 教職員研修の充実 【学校教育課】	○ プロジェクトチーム「チームDASH」による会議を開催した。（対面・オンライン形式あわせて10回実施） ○ 各校の取組の事例紹介や講師招聘による研修を行った。 ○ 「DASH通信」を発行し、授業でのICT機器活用や校務補助に関する情報を共有した。		到達度	4
			事業効果	4
			効率性	3
			方向性	3
			合計	14
			評価	A
(5) 多様な学習活動の推進 【学校教育課】	○ 授業支援アプリや学習用コンテンツを活用して、教員が児童生徒の個別の学習状況を把握したり、学習支援を行った。 ○ 児童生徒自身が学習状況に応じた課題を自ら選び、取り組む活動に、授業支援アプリや学習用コンテンツを活用した。 ○ 遠隔による合同交流学习を行った学校もある。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 タブレットの活用は、ICT活用教育専門員及びICT活用教育推進員の支援や、チームDASHによる会議・研修等により、導入以降かなり進んでおり、引き続き学習活動での活用と、ハード更新をはじめとする環境整備を進める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) タブレット端末の故障・破損が増加しており、端末の扱い方に関する指導を充実する必要がある。 学習指導用、校務用両面でのクラウド使用のすみわけを進める必要がある。
	(2) 学級数の増減や耐用年数を考慮し、配備状況に問題がないか確認し、適宜配備・更新する必要がある。
	(3) 授業におけるＩＣＴ機器の活用推進の補助に加え、校務の負担軽減に向けた取組をサポートする。 クラウドサービスの利活用に向けた調査や体制づくりに向けた取り組みをサポートする。
	(4) 校務支援ツールとしてのＩＣＴ機器の活用拡充を目指す。 クラウドの利活用に関する研修の充実を図る必要がある。
	(5) 授業支援アプリや学習用コンテンツについて情報提供・研修等を行い、授業改善を図る。 また、多様な学習活動を展開するための学習用のクラウド環境を整備する。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑤学校図書館の充実と読書活動の推進		整理番号	I－⑤
基本施策の方針	○ 学校における質の高い読書活動を推進するとともに、望ましい読書習慣形成のための家庭への啓発に努めます。 ○ 学校図書館の機能充実を図るとともに、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、資料・情報の活用能力を高めます。			
目標指標	平日、読書をする児童生徒の割合（全国学習・学力状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		小82.5% 中71.5%	小79.9% 中71.4%	小90% 中90%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 読書・学習活動の 充実 【教育総務課・学校教育課】	○ 読み聞かせや、朝読書の実施といった読書活動を実施した。 ○ 読書や本の貸出だけでなく、各教科や総合的な学習の時間における調べ学習等でも学校図書館を利用した。 ○ 児童生徒の興味・関心を引くような資料の展示を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 関係機関との連携 による学校図書館 活動の充実 【教育総務課】	○ 図書館との連携による特別貸出図書を利用するなどして、全小 学校で選書会を開催した。 ○ 授業で使用する学校支援図書を貸出した。 貸出件数（776件） 貸出冊数（4,537冊）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 学校司書の配置 【教育総務課】	○ 学校図書館コーディネーター（1人）、学校司書（15人）を配 置した。そのうち、大規模小学校（4校）の学校司書を専任化し た。 ○ 学校図書館コーディネーターを全小・中学校へ年2回派遣し、 学校図書館の活動についての情報共有と助言を行った ○ 学校司書の資質の向上を図った。 ・市主催の学校司書研修の実施（年12回） ・外部（県等）主催の学校司書研修への参加	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 読書をする児童生徒の割合は2年連続で増加しており、貸出冊数についても上昇に転じ た。 引き続き学校司書や学校図書館コーディネーターを配置し、学校や図書館担当教諭との協 働、市立図書館との連携を進め、児童生徒の読書活動の推進を図る必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 児童生徒の読書習慣の定着や資料・情報活用能力の向上に向け、学校図書館の更なる活用支援を行う。
	(2) 今後も、市立図書館と日程等を調整し、できる限り学校の開催希望に沿って、効率的に選書会を開催する。
	(3) 学校司書の業務量が年々増加しているため、学校司書同士の問題解決等、優先順位を考慮して業務を進め、共助を促す。 学校司書の役割が認知され、期待や要望が高まってきているため、司書教諭や学校図書館担当教諭との協働を促進していく。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑥心の教育の充実	整理番号	I－⑥
基本施策の方針	○ 児童生徒の思いやりや規範意識、感動する心など、豊かな人間性や社会性を育むため、保護者や地域の方と育てたい子ども像を共有し、各学校の実態に応じて指導体制を工夫していきます。 ○ 児童生徒の心身の成長の過程に即し、学校の教育活動を通じて人権尊重の意識を高め、一人ひとりを大切にする教育を組織的・計画的に推進します。 ○ 他国の伝統や文化に触れるとともに、我が国の伝統や文化を尊重し、継承・発展させようとする態度の育成を図ります。		
目標指標	「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査）	基準 令和元年度 74.1%	実績 令和6年度 69.0%
			目標 （令和7年度） 80.0%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 道徳教育の充実 【学校教育課】	○ 学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校・家庭及び地域等の実態を踏まえ、創意工夫を活かした授業をするよう、研修会等で指導助言を行った。	到達度 事業効果 効率性 方向性 合計 評価	3 3 3 3 12 A
(2) 体験活動の充実 【学校教育課】	○ 学校・地域連携カリキュラムを活用し、地域人材の協力を得ながら、特別活動や総合的な学習の時間等において体験活動を実施した。	到達度 事業効果 効率性 方向性 合計 評価	3 3 3 3 12 A
(3) 人権教育の充実 【学校教育課】	○ 県や市主催の人権教育研修会へ積極的な参加を促した。 ○ 防府市教職員研究紹介に、防府市内の小・中学校での人権教育の取組事例や研究成果・課題等を掲載し、各校と情報共有した。	到達度 事業効果 効率性 方向性 合計 評価	3 3 3 3 12 A
(4) 伝統や文化に関する教育の充実 【学校教育課】	○ 各中学校の文化活動を市民に紹介する場を設けた。 ○ こどもたちが地域とともにやっている伝統芸能等の伝承活動の成果を発表する「子ども文化祭」を開催し、文化・芸術の発表・交流の場をつくった。	到達度 事業効果 効率性 方向性 合計 評価	3 4 3 3 13 A
総合評価	想定以上である（優良） ● 想定どおりである（良好・順調）	想定より若干下回った（努力） 想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 引き続き、こどもたちの文化活動の発表・交流の場をもつことにより、伝統や文化に関する教育機会の創出に取り組んでいく必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 学習指導要領に基づいた「考え、議論する道徳」に向けた授業改善及び教科書改訂による年間計画等の整備を充実していく必要がある。 (2) 地域の財を活かした自然体験活動や社会奉仕活動、交流体験活動の充実に努める。 (3) 「山口県人権推進指針」にある分野別課題（小：11校、中：12校）を各学校の人権教育全体計画及び人権教育年間計画に反映するよう促す。 小学校においては、教科書の改訂に合わせて人権教育年間指導計画の見直しを図る。 (4) 中学校文化連盟への支援及び各中学校の文化活動の発表・交流の場をもち、子どもたちの伝統や文化に関する教育の機会を引き続き創出する。
-------------------------------------	---

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑦生徒指導・相談体制の充実		整理番号	I－⑦
基本施策の方針	○ 児童生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら、社会的な資質や能力、態度を育成し、豊かな自己実現を支援します。 ○ 学校における全ての教育活動を通じて、一人ひとりの児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成します。			
目標指標	不登校児童生徒の出現率	基準 令和元年度 小0.8% 中4.3%	実績 令和6年度 小2.0% 中7.6%	目標 (令和7年度) 小0.7%以下 中3.8%以下

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 開発的な生徒指導 の推進 【学校教育課】	○ 生徒指導主任研修会、教育相談担当者研修会を開催し、生徒指導における現状と課題を認識した上で、指導方針の明確化や発達支持的な生徒指導の共通理解を図った。 ○ いじめや暴力行為などの早期発見、早期対応のための情報提供が、各校のより効果的な生徒指導体制づくりに繋がった。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 学校内外と連携した問題行動への対応 【学校教育課】	○ サポートチーム等の関係機関との情報・行動連携の強化を図り、生徒指導上の諸問題に迅速・的確に対応した。 ○ 生活・安心相談員による訪問支援を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	13	
		評価	A	
(3) きめ細かな不登校対策の推進 【学校教育課】	○ 教育支援センター「オアシス教室」の専任指導員を3名雇用し、不登校児童生徒に対しての学習指導を中心に支援を行った。 ○ 不登校やいじめ等の学校教育に関する相談が増加傾向にあるため、学校への助言や家庭への支援を行う生活・安心相談員を配置して、課題の早期発見並びに予防を行うなど、きめ細かな対応を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	4	
		方向性	4	
		合計	14	
		評価	A	
(4) 緊急時等の学校への支援体制の充実 【学校教育課】	○ 学校だけでは解決が困難な問題行動等の発生時や、事件・事故等による児童生徒の精神的動揺が激しい場合に、専門家や専門家チームを学校に派遣し、児童生徒の安全確保や心のケア、学校への助言・支援を行った。 ○ 重篤ないじめ問題等の解決に向けたいじめ調査委員会（第三者機関）の設置及び支援体制の整備に努めた。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	13	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については計画どおり実施できているが、不登校やいじめ等の相談が増加傾向にあるため、関係機関等との連携を強化し、早期発見・早期対応を図っていく必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) これからの児童生徒の生徒指導上の問題は、関係機関との連携がこれまで以上に必要になってくる。家庭と学校の連携を基盤とし、小・中連携や地域・関係機関と学校が連携した生徒指導体制のさらなる強化が求められる。
	(2) 子どもの教育に対する関心が低い、また、養育に対して不安をもっている保護者が増えており、学校が対応に苦慮するケースが多くなっている。今まで以上に関係機関と連携した保護者支援等、早期に対応する必要がある。 生活・安心相談員の周知に努める。
	(3) 専任指導員や在宅生徒学習指導員、生活・安心相談員が、様々なケースに丁寧に連携して対応している。しかしながら、不登校児童生徒数は増加傾向にあるため、保護者への助言や学校への支援、連携等、福祉部局と連携しながら、一層きめ細かな支援体制の充実が求められる。
	(4) 学校だけでは解決が困難な児童生徒の問題行動等について、日常的な情報共有を行い、早期解決につなげる。学校・専門家が連携対応できる体制を整え、組織的に対応する。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑧健康教育の推進	整理番号	I－⑧
基本施策の方針	○ 自他の生命を尊重し、心身の健康保持に対する意識を高め、発達段階に応じた望ましい生活習慣を育みます。 ○ 健康で安全に行動できる自己管理能力と、たくましく生きるための体力を育みます。		
目標指標	山口県体力テストの総合評価がC以上の児童生徒の割合	基準 令和元年度	実績 令和6年度
		73.8%	73.0%
			目標 (令和7年度) 80.0%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 体力向上のための望ましい運動習慣の定着 【学校教育課】	○ 体力向上レポートに基づいて、体力課題の解決のために、組織的な体力向上に取り組んだ。併せて、地域における部活動を推進し、生徒の体力向上に努めた。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 健康な生活を送ろうとする実践力を育てる指導の充実 【学校教育課】	○ 体力テストの分析結果を市ホームページへの掲載、体力熟議の実施など、家庭・地域・関係機関との連携を強化した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 食に関する指導の充実 【学校教育課】	○ 各校が作成する「食育月間」や「食育の日」に合わせた食育指導に係る実績報告を基に、食に関する指導の取組状況の把握に努めた。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 山口県体力テストの総合評価がC以上の児童生徒の割合は2年連続で上昇しており、引き続き、児童生徒の体力向上・運動習慣定着に向けた取組を進める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 今後の取組	(1) 全国体力・運動能力調査を基に、各校の児童生徒の体力課題を把握し、実効性のある体力向上レポートを作成する。 また、子どもの視点に立った体育・保健体育授業づくりや、新体力テストに向けた目標のめたせ方など、授業改善が必要である。
	(2) 健康な生活を送るために、校内推進体制を充実させるとともに、家庭・地域との連携の更なる強化を図る。
	(3) 今後も引き続き、食育に関する企画を取り入れ、児童生徒の食育への関心を高める。栄養教諭による訪問指導や食育担当者の研修会を実施し、研修成果を各校に還元できるようにする。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑨安全・安心な学校給食の推進		整理番号	I-⑨
基本施策の方針	○ 給食を通じて、学校・家庭・地域の連携による食の大切さを学ぶ食育を推進します。 ○ 地産地消を推進し、安全で質の高い給食を提供します。 ○ 食物アレルギーを有する児童生徒一人ひとりの安全な給食の確保に努めます。 ○ 給食調理場の施設・設備を改善し、安全・安心な給食を提供します。			
目標指標	地産地消導入率	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 (令和7年度)
		73.3%	75.4%	70%以上を維持

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 食育の推進 【学校教育課】	○ 給食物資については、地場産食材を活用し、郷土料理・季節毎の行事食などを献立に取り入れた。 ○ 毎月、食に関する指導などを掲載した給食だよりを保護者へ配布し、食育の推進を図った。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	4	
		方向性	4	
		合計	15	
		評価	AA	
(2) 使用食材の安全性確保と地産地消の推進 【学校教育課】	○ 使用食材の産地・生産履歴を確認し、安全性の確保に努めた。 ○ 地場産食材の使用については、市場・卸業者等と連携を図り、学校給食県産食材利用拡大事業の県産100%メニューを年9回以上実施し、各学校等の献立の情報を共有した。 ○ 地場産食材使用率の向上に努めた。	到達度	4	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	15	
		評価	AA	
(3) 食物アレルギーへの対応 【学校教育課】	○ エピペン実習を含む食物アレルギーに関する「学校保健に関する研修会」を開催した。 ○ 養護教諭主体で、アレルギー症状が見られた際の緊急対応について周知徹底を図った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 安全・安心な給食の提供 【学校教育課】	○ 各小学校及び学校給食センターの施設や器具の充実及び点検を行った。 ○ 12小学校と小野学校給食共同調理場及び防府市学校給食センターの給食調理を業務委託。（残りの3小中学校は直営実施） ○ 各学校の給食室や学校給食センターの設備等については、経年劣化が進んでいるため、具体的な更新計画を策定した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）	
	● 想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 地産地消導入率は目標値を超える水準を維持しており、安全性の確保にも努めている。 今後は、老朽化した設備等の更新を計画的に進める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 食育の推進に向けて、栄養教諭・学校栄養職員の資質能力の向上のための研修の充実を図る。
	(2) 地場産食材については、生産コストの高騰による価格の上昇や天候等により必要数量の確保が困難になるなどの課題があるが、納入業者との連携を密にし、献立を工夫することにより利用率の向上に努める。 引き続き、食材の納品にあたっては、産地・生産履歴の確認に加え、納入時の品質や鮮度等に問題がないか確認し、安全性の確保に努める。
	(3) エピペンを所持している児童生徒が増加していることから、今後も食物アレルギーに関する理解の共有や対応力の強化に引き続き努める。
	(4) 経年劣化が進んでいる各学校の給食室や学校給食センターの設備等の更新計画に基づき、更新を進めていく。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	⑩特別支援教育の充実	整理番号	I－⑩	
基本施策の方針	○ 特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して、適切な合理的配慮の提供を行うとともに、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、個々の能力や個性を最大限に伸長するために、組織的・計画的な支援を行います。 ○ 特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒及びその保護者に対して、教育・医療・福祉等との連携による支援の充実を図ります。 ○ 防府市の特別支援教育の取組等についての理解を得るために、適切な情報提供を行います。			
目標指標	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の「個別の教育支援計画」策定率	基準 令和元年度 小66.6% 中42.8%	実績 令和6年度 小83.3% 中86.4%	目標 (令和7年度) 小100% 中100%

主な取組【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 早期からの切れ目のない支援体制の充実 【学校教育課】	○ 保幼小の教職員が協議できる保幼小連携教育研修会を実施した。 ○ 各小学校単位で職員同士の連絡会や授業参観、こども同士の交流を実施した。 ○ 小・中学校で生徒指導主任会を実施した。 ○ 各中学校区単位で連携を目的とした合同研修会を実施した。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 4 合計 13 評価 A	
(2) 特別支援教育の視点を取り入れた通常の学級の授業改善 【学校教育課】	○ 特別支援教育担当者研修会及び校内コーディネーター研修会を実施し、特別支援教育の充実を図った。 ○ 学校支援員に対し、学習や生活面で行う支援の方法についての研修会を2回実施した。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(3) 特別支援学級における教育の充実 【学校教育課】	○ 障害のある児童生徒、また、障害の可能性がある児童生徒に対して、必要な教育支援を講ずるために、市内の特別支援学級設置校の校長、担任教員などを委員とする防府市教育支援委員会を設置し、必要となる調査・検査・診断に基づいた教育支援を行った。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(4) 校内教育支援体制の充実 【学校教育課】	○ 学校支援員を配置し、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対する学習支援、健康や安全の確保、運動会や校外活動等の学校行事における支援を行った。 (15小学校に59人 7中学校に14人) ○ 市内3校にある幼児通級指導教室で教育相談・指導を実施した。 (佐波小：103人 華浦小：45人 中関小：45人)	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(5) 特別支援教育に関する広報活動の充実 【学校教育課】	○ 「防府市の特別支援教育」のチラシに加えて、未就学の保護者向けのチラシも作成し、保護者や幼稚園・保育園の先生に配布した。 ○ 療育に関わる方を対象に特別支援教育推進員が講演を行った。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
総合評価	想定以上である（優良） ● 想定どおりである（良好・順調）	想定より若干下回った（努力） 想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 今後も、特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに合った学習環境の提供に努める必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進に あたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 県作成の「つながる子どもの育ちと学び」を活用し、各小学校及び各幼稚園・保育所での教職員のつながりとこどもたちの交流の場を充実させる。 随時実施している就学相談後の情報交換や幼稚園・保育園（所）等による研修会等の機会を活用し、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成の必要性等について、周知を図る。
	(2) 特別支援教育推進員等が授業参観や教育相談を行い、各校の実情に応じた支援の充実を図る。
	(3) 関係機関との連携による教育支援体制のより一層の充実を図り、特別な配慮の必要な児童生徒に対して、個別の教育支援計画や指導の計画を活用し、適切な指導・支援を行う。
	(4) 特別な教育的支援を必要とする児童生徒の数や実態は依然として多く、支援員の増員が強く望まれている。 また、通級を希望する幼児指導生徒も増加しており、適切な指導体制の充実も課題である。
	(5) ホームページに掲載するチラシ内容の見直し、デジタル化を進めるなど、より多くの人に必要な情報が提供できるようにする。

施策の柱Ⅰ 知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進

基本施策	①幼児教育の充実	整理番号	I－①
基本施策の方針	○ 就学前の幼児教育から小学校教育へのなめらかな接続を図ります。 ○ 認定こども園・幼稚園・保育園（所）における保護者の経済的負担軽減や幼児教育の充実に努めます。		
目標指標	「幼保・小連携教育研修会」に参加する保育園・所、幼稚園の割合	基準 令和元年度 76.0%	実績 令和6年度 84.0%
			目標 (令和7年度) 100.0%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 幼保・小の連携の推進 【学校教育課】	○ 保幼小連携教育研修会を年2回実施した。 (1回目56人 2回目71人) ○ 5歳児から1年生までの架け橋期の教育のあり方について協議し、教職員連携とこどもたちの育ちと学びをつなげるためのカリキュラム作成に着手した。 ○ 各小学校で作成したスタートカリキュラムをもとに、生活科を中心とした学校生活に慣れるための指導を行った。	到達度 3 事業効果 4 効率性 3 方向性 3 合計 13 評価 A	
(2) 子育てに関する相談体制の充実 【学校教育課】	○ 保護者に対して子育てに関する相談を実施した。 (5歳児発達相談会：70人 就学相談：147人) ○ 療育機関や発達に関する医療機関を紹介するなど、保護者の子育ての悩みや不安を解消したり、一人ひとりの実態に応じた支援を行った。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(3) 乳幼児機関への支援の充実 【学校教育課】	○ 幼稚園連盟補助事業により、防府市幼稚園連盟の行う研究調査及び研修活動等に対し補助を行った。 ○ 私立幼稚園におけるこどもの読書活動を推進するため園児数等に応じて補助した。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
総合評価	想定以上である（優良） ● 想定どおりである（良好・順調）	想定より若干下回った（努力）	想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 引き続き関係者間の連携を推進していく必要がある。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 継続して研修や情報交換の機会をもつ。 関係小学校、幼稚園・保育所、認定こども園で連携し、幼児・児童の交流や職員同士の参観、情報交換の場を充実させ、より効果的な連携を進めていく必要がある。 (2) 相談が必要と思われる5歳児の保護者への支援につなげていくことが課題であり、引き続き園から日頃の生活の様子や、将来を見据えた早期の対応等を粘り強く説明していく必要がある。 年々相談者が増加しているため、医師や心理士等のスタッフの確保が課題である。 (3) 公立幼稚園を有しない本市において、私立幼稚園への支援は幼児教育の充実に必要の施策であり、今後も継続して支援を行う。
-------------------------------------	---

施策の柱Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進

基本施策	①地域とともにある学校づくりの推進	整理番号	Ⅱ－①
基本施策の方針	○ コミュニティ・スクールの充実を図り、保護者や地域住民が学校運営に参画する地域に開かれた信頼される学校づくりを進めます。 ○ 学校と家庭、地域が連携・協力し、地域ぐるみで子どもたちの育ちや学びを見守り、支援する取組を推進します。		
目標指標	「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という設問に肯定回答した児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査より）	基準 令和元年度	実績 令和6年度
		小59.6% 中43.9%	小82.3% 中77.7%
			目標 (令和7年度)
			小80% 中80%

主な取組 【担当課】		令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) コミュニティ・スクールの円滑な運営 【学校教育課】	○ 保護者や地域住民等が学校に参集する機会が増加した。 ○ 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合が前年度に比べて更に増加した。 ○ 校内で学校・地域連携カリキュラムの見直しを行った。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	4		
		合計	13		
		評価	A		
(2) 地域協育ネットの推進 【生涯学習課】	○ 「防府まるごと学校のつどい」をオンラインで実施した。多くの協育ネットで共通実践項目に基づく活動が展開された。 ○ 市内15小学校区で放課後子ども教室を実施した。各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に活動した。 ・ 市内放課後子ども教室への参加児童数：延べ約7,300人 ・ コーディネーター同士の情報交換会：年3回実施	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	12		
		評価	A		
(3) 広報活動の充実 【学校教育課】	○ コミュニティ・スクールの取組を紹介する事例集を活用し、各学校の取組の周知に努めた。 ○ 牟礼南小学校、野島小中学校、桑山中学校において、県主催の「CSプレゼンツ2024」に応募し、保護者や地域住民など多くの方に視聴してもらえるように取り組んだ。また、プレゼン部門に桑山中が提出した。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	12		
		評価	A		
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）	
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント		各取組については計画どおり実施できている。 引き続き、保護者や地域住民等の学校運営への参画と連携を促し、特色のある学校づくりを推進するため、コミュニティ・スクールの充実に努める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 保護者や地域住民等の学校運営への適切な参画と連携の強化を図るため、熟議をとった思いや願いの共有、学校運営協議会における協議の充実に努め、具体的な活動へつなげる必要がある。
	(2) 地域学校協働活動推進員を中心にして、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒の成長と学びを育み見守る体制作りのため、地域協育ネット協議会をより質の高いものにしていく必要がある。 放課後子ども教室について、継続的な運営のために新規コーディネーターとなりうる人材の確保を促す。
	(3) 各学校がそれぞれの特色を生かして、地域の方々との交流の機会を創出する。 コミュニティ・スクールの取組を紹介するプレゼンテーションや各種便りを活用し、取組の様子を紹介していく。

施策の柱Ⅱ 地域ぐるみの教育の推進

基本施策	②青少年の健全育成	整理番号	Ⅱ－②
基本施策の方針	○ 関係機関・団体と連携し、家庭教育に関する学習機会や相談機能の充実を図るとともに、地域における青少年の非行・問題行動の防止活動や有害な環境の改善活動などの青少年育成活動を推進します。 ○ 青少年の自主性や社会性を培うため、青少年団体の活動を支援します。 ○ 子どもたちが安全に安心して過ごせる環境づくりとして、登下校時などに「不審者からの声かけ」等の被害から、子どもたちの身を守るための避難場所となる「子ども110番の家」の設置を推進します。		
目標指標	「子ども110番の家」設置箇所数	基準 令和元年度 612箇所	実績 令和6年度 519箇所
			目標 (令和7年度) 650箇所

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 家庭教育機能の強化 【生涯学習課】	○ 青少年育成センターに設置している「ヤングテレホン防府」による電話相談や来所相談を実施した。（相談件数：87件） ○ 「家庭の日」運動の啓発を行った。 ・啓発用品（ポスター・チラシ・のぼり旗）を作製・配布（防府市青少年育成市民会議が作製）。 ・市広報や広報紙「はばたき」、「まなぼうやだより」に関連記事を掲載。 ○ 「家庭の日」親子ふれあいイベントの開催。（年6回：山口県立大学と協働） ○ 家庭教育支援チームによる「子育て学習会」や「赤ちゃんとのふれあい体験」、「子育て広場」を実施。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 非行・問題行動の防止活動や有害な環境の改善活動 【生涯学習課】	○ 街頭巡視活動を実施した。 ・常時巡視（青少年育成センター指導員）、地区巡視（青少年補導員16地域、153名）（延べ432回実施、1,514人が参加） ・合同巡視（防府警察署、関係団体）：毎月第3金曜日の計12回、防府駅周辺店舗・ルルサス防府周辺を巡視。 ○ こども環境クリーンアップ活動を実施した。 ・有害図書類等の設置状況調査（書店、コンビニエンスストア） ・深夜営業施設の調査（ネットカフェ、カラオケ店） ・携帯電話端末等の販売店における立入調査	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 青少年活動の推進 【生涯学習課】	○ 青少年関係団体の支援を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 子どもの安全・安心対策 【生涯学習課】	○ 「子ども110番の家」について周知を行った。 ○ 防府警察署の生活安全課に「子ども110番の家」の設置箇所を情報提供し、連携に努めた。 ○ 「子ども110番の家」のポール・のぼり旗の購入、交換などを行った。 （令和7年3月末時点の登録件数：519件）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 引き続き、関係機関・団体と連携しながら、家庭教育機能の強化や健全育成のための各種活動に取り組む必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進に あたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 「ヤングテレホン防府」による電話相談・来所相談、広報紙「育成センターだより」を発行し、青少年及び保護者が気軽に相談できるような体制を整える。 「家庭の日」親子ふれあいイベントは、参加者が増加傾向にあり、参加者の満足度も高いイベントになっている。今後もさらなる周知、PRを行う。 家庭教育支援チームは、人員の増加と活動の幅を広げていくことを目指しているが、PTAをはじめとする関係機関・団体への呼び掛けなどを通じて、持続可能な仕組みづくりを図る必要がある。
	(2) 各種街頭巡視活動を実施し、必要に応じて指導・助言を行う。 引き続き関係機関・団体と連携し、青少年の非行防止、早期発見活動に努める。
	(3) 継続して活動の支援を実施していく。各種事業の助成対象に該当する団体等に対して、制度の周知を図っていく。
	(4) 各地区の青少年育成連絡協議会等に「子ども１１０番の家」設置の趣旨等の周知を呼びかけていく。適宜、のぼり旗・ポールの配付、交換を行う。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	①生涯学習機会の充実	整理番号	Ⅲ－①
基本施策の方針	○ 市民の生涯学習意識を高めるため、必要とされる情報を適切に提供する仕組みの充実を図ります。 ○ 生涯にわたって、現代社会が抱える課題から発生するニーズに応じた、様々な学習活動を支援するための学習機会を提供します。 ○ 高度化・多様化した学習ニーズに対応するため、生涯学習専門員による生涯学習相談コーナーの一層の充実に努めます。 ○ あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができる生涯学習社会の実現に向け、防府市生涯学習推進協議会、行政、市民、民間団体、企業、大学等の連携による、教育ネットワークの強化を図ります。		
目標指標	「聞いて得するふるさと講座（出前講座）」の利用件数	基準 令和元年度 117件	実績 令和6年度 177件
			目標 （令和7年度） 130件

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 生涯学習情報発信の充実 【生涯学習課】	○ 市民向けの講演会や講座などの情報を集約し、市民に生涯学習情報の提供を行った。 ○ 聞いて得するふるさと講座を実施した。（177件）	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(2) 多様な学習機会の提供 【生涯学習課】	○ 各年齢期に応じた子育て講座を実施した。 ・就学期子育て学習会（16小学校各1回） うち家庭教育支援チームによる実施5校 ・思春期子育て講座（9中学校各1回 1,483人）	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(3) 生涯学習相談体制の充実 【生涯学習課】	○ 生涯学習専門員による学習相談やボランティア講師の紹介、生涯学習情報の提供を行った。（対応件数：596件） ○ 情報紙の発行により生涯学習情報の提供を行った。 ・こども向け生涯学習情報紙「まなぼうやだより」（年3回発行） ボランティア・協働情報紙「まなぼら」（年4回発行）	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
(4) 産学公民の教育ネットワークの強化 【生涯学習課】	○ 第3次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン3）に基づく施策や取組状況の点検及び次年度に向けての見直しを行った。 ○ 第4次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン4）の策定に向けてアンケート調査を行った。	到達度 3 事業効果 3 効率性 3 方向性 3 合計 12 評価 A	
総合評価	想定以上である（優良） ● 想定どおりである（良好・順調）	想定より若干下回った（努力） 想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 関係機関に講座開設を働きかけ、聞いて得するふるさと講座の実施回数が着実に伸びるなど、生涯学習機会の充実に努めている。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 実施後のアンケートや報告書を参考に、市民の多様なニーズに応える魅力的な講座となるよう、引き続き各課に呼びかけを行い、メニューの追加や内容の充実に努める。
	(2) 引き続き、就学時健康診断の際に、就学期子育て学習会を開催し、家庭教育支援チームによる学習の機会の提供や各学校PTAとも連携した取組を推進する。 思春期子育て講座についても引き続き各中学校に呼びかけを行い、未実施の学校に対して実施を促していく。
	(3) 学習相談やボランティア講師への申込、多様化するニーズへの対応のため、関係機関・団体とのきめ細やかな連携を図り、円滑な相談対応につなげる。 情報紙の作成について、より魅力的なものになるよう、関係機関・団体との編集会議において協議し、内容の充実を図る。
	(4) 令和6年度の事業実施状況の点検を行うとともに、令和6年度に実施したアンケート調査結果を踏まえ、第4次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン4）の策定に向け、骨子案や素案について協議する。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	②生涯学習を支える人材の育成と活用	整理番号	Ⅲ－②
基本施策の方針	○ 生涯学習に関するボランティア活動の研修の場を継続して提供し、ボランティアや生涯学習指導者・支援者の育成機会の充実を図ります。 ○ ボランティア活動を支援するとともに、生涯学習フェスティバル、放課後子ども教室等のボランティアが活躍できる場を提供します。 ○ 社会教育関係団体等の活動を支援します。 ○ 地域人材の「ほうふ幸せます人材バンク」への登録を進め、学校の授業や地域で開催される講座等での活用を促進します。		
目標指標	「生涯学習指導者バンク」登録者の派遣回数（年間）	基準 令和元年度 164件	実績 令和6年度 215件 目標 (令和7年度) 200件

主な取組 【担当課】		令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実 【生涯学習課】	○ 生涯学習ボランティア養成講座を開催した。 （参加者数延べ14人） ○ ほうふ幸せます人材バンク研修会を開催した。 （参加者数20人）	到達度	2		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	11		
		評価	B		
(2) ほうふ幸せます人材バンクの充実 【生涯学習課】	○ 指導者バンク登録件数 144件 ○ 支援者バンク登録件数 939件 ○ 指導者バンク登録者による学習会の開催回数 215回 ○ 夏季学ぼうやセミナーの開催：19講座、受講者数：延べ459人 ○ わくわく学び塾の開催：4講座、参加者数：延べ66人 ○ ほうふ幸せます人材バンク研修会の開催：参加者数20人	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	12		
		評価	A		
(3) 学習成果発表の機会づくり 【生涯学習課】	○ 第31回生涯学習フェスティバルの開催：来場者数6,806人 ・新庁舎開庁を記念し、開催場所を防府市役所として、38の個人・団体による講演や講座を実施。また、防府市文化センターで、セレモニーや実行委員会企画の抽選会等を実施。 ○ 各公民館にある学ぼうやギャラリーの活用、展示の実施。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	12		
		評価	A		
(4) 社会教育関係団体や各種ボランティア団体への支援 【生涯学習課】	○ 小・中学校PTA連合会や防府ユネスコ協会などの社会教育関係団体等に助成を行った。	到達度	3		
		事業効果	3		
		効率性	3		
		方向性	3		
		合計	12		
		評価	A		
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）	
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）	
評価コメント	各取組については概ね計画どおり実施できている。 生涯学習指導者バンク登録者の派遣回数は目標値を超えて推移している。 一方、生涯学習ボランティア養成講座の参加者や指導者バンク等の登録件数は減少しており、人材の確保に努める必要がある。				

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 生涯学習ボランティア養成講座について、より多くの方に参加してもらえるよう、日時や内容等の見直しを検討し、実施していく必要がある。 人材バンク研修会について、参加者にとってより充実した時間となるよう、アンケート結果をもとに、ニーズの把握や内容についての検討を行う必要がある。 (2) 指導者バンクについて、新規登録者の確保につながるよう、情報紙等で登録の周知や、学ぼうやセミナー等の活動啓発をする。 支援者バンクについて、地域毎の登録者数に偏りがあるため、公民館・出張所会議等で周知し、登録につなげていく。 研修会の状況をホームページ等で啓発する。 (3) 令和7年度の生涯学習フェスティバルについては、会場をルルサス防府に戻して実施する予定。充実した学習成果発表の場となるように、会場配置や表示等、集客の工夫を検討する必要がある。 学ぼうやギャラリーの展示内容の充実に努める。 (4) 社会教育関係団体の自主性を尊重しながら、引き続き、運営や活動の支援を行う。
-------------------------------------	---

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	③人権学習の推進	整理番号	Ⅲ－③
基本施策の方針	○ 防府市人権学習推進市民会議と連携し、基本的な人権尊重の視点に立った人権学習を推進するため、様々な学習機会を提供します。 ○ 地域社会の実情や課題、市民の学習ニーズを踏まえた学習内容等の充実に努めます。 ○ 市民一人ひとりの人権が尊重される地域づくりに向けた市民の自主的な人権学習を支援します。		
目標指標	市内で開催する人権学習に関する研修会、講演会等の回数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和6年度
		77回	87回
			目標 （令和7年度） 100回

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 市民ぐるみの積極的な推進 【生涯学習課】	○ 防府市人権学習推進市民会議と連携して、さまざまな人権問題をテーマに講師を招聘し、市民セミナー・講演会を実施した。 【実施事業】 市民会議総会（講演会） 参加者:201人 市民セミナー（3回） 参加者:延べ232人 （※第1回は、台風接近に伴い中止） 人権講演会 参加者:165人	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 推進体制の充実 【生涯学習課】	○ 人権学習推進委員を対象に、情報交換及び研修会を実施した。 【実施回数】 推進委員研修会：3回 参加者：延べ97人 ○ 市内5か所の教育集会所で、各種教養講座を実施した。 【実施講座】 編み物、ペン習字・実用書道、ペン習字（こども）、和裁、珠算（こども）、手話	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 人権学習への支援 【生涯学習課】	○ 地域や学校、企業、団体等で実施される学習会に、人権学習指導員や社会教育主事を派遣し、または人権学習啓発のための視聴覚教材の貸出を行った。 【派遣回数】 人権学習指導員の派遣 87回 【貸出実績】 視聴覚教材（DVD・ビデオ） 86本	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 人権学習に関する研修会、講演会等の回数は増加しており、引き続き、市民の関心を高めるため、各種媒体を使って周知を図る必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 今後の取組	(1) 12年ぶりに改定された県人権指針に基づき、その改定された内容を踏まえ、市広報や、市ホームページ、企業会報誌への折込チラシ等広報活動により、人権学習への市民の関心を高めて参加につなげていく。
	(2) 引続き、人権学習推進委員を対象とした人権学習研修を行うとともに委員同士の情報交換会を行い、委員の資質向上を図る。 また、講座については、受講生の増加を図るために、受付方法に電子申請システムLoGoフォームを追加するとともに、情報発信を行い周知していくことが必要である。
	(3) ホームページ等で市民の人権学習への関心を高めていくとともに、引続き、指導員の派遣や視聴覚教材等の貸出により、地域や学校、企業、団体等が実施する人権学習活動への支援を行っていく。 視聴覚教材の貸出しについては、毎週水曜日午前、防府市役所福祉棟2階にてDVDを上映し、市民にDVDに触れてもらう機会を増やす。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	④生涯学習の拠点となる施設の充実		整理番号	Ⅲ－④
基本施策の方針	○ 公民館は、地域における住民の学習ニーズに総合的に応える施設であり、社会教育主事等の配置による専門職員の充実に努めるとともに、地域課題に対応した学習機会の提供や、地域情報の収集、学習情報の提供に努めます。 ○ 公民館は、地域コミュニティ活動を支援する施設としての役割や、地域の課題を解決するための学習を行う施設としての役割が期待されることから、地域活動の拠点施設としての機能の充実に努めます。 ○ 青少年科学館（ソラル）では、本市の科学教育普及活動の拠点施設として、創造性豊かな青少年の育成と市民の科学技術に関する知識の普及及び啓発を図ります。			
目標指標	公民館利用者数（年間：延べ人数）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		204,726人	209,714人	220,000人
	ソラル入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		59,172人	87,290人	80,000人

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 公民館の整備・充実 【生涯学習課】	○ 公民館の経年劣化による施設設備の修繕を随時実施した。 ○ 牟礼公民館の移転・建替えに向けた建設工事に着手した。 ○ 公民館の照明器具のLED化工事（佐波、勝間、松崎）を行った。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
(2) 公民館活動の推進 【生涯学習課】	○ 各公民館において、市民教養講座や家庭教育学級・女性学級・高齢者教室等を実施した。 ○ 各教室について、公民館だよりやホームページ等による情報発信を行った。 ○ 各教室の内容がより充実するよう、他市から講師を招聘し、研修会を実施した。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
(3) 青少年科学館の充実 【生涯学習課】	○ 年間を通じて各種科学教室や企画展を開催するとともに、小・中学校への理科教室支援も行った。 ○ 青少年の科学技術に対する夢と創造力を育み、創造性豊かな人間形成を図ることを目的として発明クラブの活動を行った。 ○ 科学する子どもたちの裾野を拡げ、日頃の研究成果の発表の場として「科学アイデア作品・研究コンテスト」を実施した。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 ソラルについては、企画展の成功により過去最高の入館者数を記録した。 今後も、市民のニーズに沿った講座や企画展の開催等により生涯学習の推進と科学技術の知識の普及啓発に努める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 緊急度の高い順に公民館の補修や改修を行うとともに、老朽化等による公民館（中関、大道、華浦）の計画的な建替えを行っていく。
	令和7年度供用開始に向けて、牟礼公民館の建設工事を進めていく。
	(2) 引続き、公民館で行われる講座等の情報発信を行うとともに、受講生のニーズに沿った魅力ある講座を提供できるように努める。
	(3) 企画展や常設展示など、青少年科学館全体の魅力を向上させる工夫を行っていく。
	来館者が安全・安心に科学館を利用できるよう、整備計画を立てて、計画的に施設整備を進めていく。

施策の柱Ⅲ 一人ひとりがきらめく生涯学習の推進

基本施策	⑤図書館の充実と読書活動の推進		整理番号	Ⅲ－⑤
基本施策の方針	○ 「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づき、本市の特色を生かした資料の収集や、利用者ニーズに対応した幅広い資料の充実・整備を図ります。 ○ 多様な利用者ニーズに的確に対応するため、利用者サービスの質的向上を図るとともに、市内全域サービスやWebサービスのさらなる充実に努めます。 ○ 市民との協働を推進し、図書館ボランティアの養成・育成を図ります。 ○ 学校図書館をはじめ他の図書館や教育文化施設・機関等との相互協力・連携を推進します。			
目標指標	図書館館外個人貸出者数(年間：延べ人数)	基準 令和元年度 141,371人	実績 令和6年度 135,129人	目標 (令和7年度) 147,000人

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 図書館資料の質・量両面の充実 【教育総務課】	○ 「防府市立防府図書館資料収集要綱」に基づき適正な選書・収集を実施した。 新刊図書9,281冊、雑誌303誌、新聞17紙購入 電子書籍冊数2,881冊（うち郷土資料287冊） ○ 「防府市立防府図書館資料保存及び除籍要綱」に基づき資料の廃棄を進めた。（年間廃棄冊数6,003冊）	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(2) 図書館利用者サービスの充実 【教育総務課】	○ 図書館協議会にて図書館サービス振興計画に沿った利用者サービスの検証等を行った。（年3回） ○ 令和4年10月に導入した電子図書館の貸出冊数が増えた。 （令和5年11,060冊→令和6年22,306冊） ○ 図書館照明器具のLED化により、館内が明るくなり、読書環境が改善した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(3) 図書館事業への市民参画の促進と活用 【教育総務課】	○ 子ども読書フェスティバルや図書館まつりを開催した。図書館まつりには、昨年に引き続き市内の高等学校のボランティア部等から多くの協力を得ることができ、大変盛況だった。 ○ ボランティア養成講座を2回開催した。（参加者：延べ24人）施設改修により、講座が2回に減少し、時期がずれたが、夏休み中に開催したことにより、初めてこどもの参加があった。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(4) 様々な教育文化施設との連携の推進 【教育総務課】	○ 学校図書館への学校支援図書の貸出や選書会の開催を支援した。貸出件数：776件 貸出冊数：4,537冊 ○ 他の社会教育施設等への講師の派遣やイベントを開催した。 ○ 青少年科学館ソラールや山頭火ふるさと館等との関連展示や合同企画を行った。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(5) 集会・文化活動及び広報活動の推進 【教育総務課】	○ 話題の物事や物故者に関する資料を展示した。 月例資料展示31回 ミニ資料展示50回 ブラウジングコーナー壁面等の展示4回 ○ 市高齢福祉課の企画と連携して、「認知症カフェ」のパネル展示をした。 ○ 春川市図書館との資料交換協定締結20周年を記念して、春川図書館コーナーにて特別展示をした。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A
(6) 「防府市子ども読書活動推進計画」に基づく子どもの読書活動の推進 【教育総務課】	○ こども向けのイベントを開催した。 防府市子ども読書フェスティバル、読書感想文教室（年2回） 子ども図書館員体験（年2回）、マナーアップキャンペーン（1回）、ビブリオバトル、さんさんおはなし会（8回）、出前授業（2回）、クリスマスおはなし会（1回）、読書感想文のヒント（ソラールとの連携事業）、出前授業（2回） ○ 防府市図書館を使った調べる学習コンクールを実施した。 （応募作品：小学生47作品、中学生18作品）	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
		評価	A

総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については計画どおり実施できている。 様々な関係機関と連携した新たな企画の実施や、利用者ニーズに合わせて電子書籍の拡充を行うなど、特色のある取組を実施している。 引き続き、利用者ニーズに対応した幅広い資料の充実・整備、サービスの提供に努める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1)	要綱に基づき、資料の充実を図るとともに、資料の購入や廃棄及び更新を促進する。
	(2)	図書館のイベントやサービスについて、更なる周知を行う。
	(3)	図書館のイベントやサービスについて周知し、新規ボランティアの養成が必要である。
	(4)	関係機関と連携して、イベントなどを行うとともに、図書館の出張サービス等について、更なる周知を図ることが必要である。
	(5)	市民ニーズに沿った展示の開催に努めるとともに、その周知を図り、図書館の利用を促進する。
	(6)	調べる学習コンクールについては、児童生徒へのチラシ配付や学校への周知により、出品数が増加した。今後も出品者数が伸びていくよう、効果的なPRを検討する。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	①安全・安心な施設整備、教育環境の確保	整理番号	Ⅳ－①
基本施策の方針	○ 学校施設の耐震化や老朽化施設の整備を図り、安全・安心な学校づくりを推進します。 ○ 少人数学級化など、時代の変化を見据え、誰でも利用しやすく環境に配慮した、ゆとりと潤いのある施設や効果的な授業の実現に向けた学校教材、環境を整備し、質の高い教育環境を提供します。		
目標指標	小中学校屋内運動場等の天井器具等の落下防止対策実施割合	基準 令和元年度	実績 令和6年度
		34.5%	69.0%
			目標 (令和7年度) 100.0%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 学校施設の整備 【教育総務課】	○ 長寿命化改良工事 国府中学校南校舎 華浦小学校南校舎 佐波中学校屋内運動場 ○ 学校トイレ洋式化工事（各小・中学校）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 学校施設非構造部材の耐震化 【教育総務課】	○ 屋内運動場照明設備改修工事 小野小学校、西浦小学校 ○ 屋内運動場体育器具等落下防止対策工事 小野小学校、西浦小学校 ○ 外壁改修工事 華西中学校	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 学校教材の整備 【学校教育課】	○ 学習生活に必要な教材備品や、新規に開設する特別支援学級の備品などの整備を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組については計画通り実施できている。 学校施設の長寿命化改良や非構造部材の耐震化に加え、トイレ洋式化を行い学習環境の向上に努めた。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 長寿命化計画に沿って着実に実施できるよう、予算確保するとともに、照明のLED化や省エネ改修等のカーボンニュートラルへの取組や、バリアフリー化、良質な学習環境の整備などに対応できるよう改修計画を実施する必要がある。
	(2) 非構造部材の耐震化として、校舎外壁、屋内運動場の体育器具等の落下防止対策工事を計画的に進めてはいるが、国からも早急な対応を求められていることから、必要な財源の確保に向けて関係部署と協議を進める。
	(3) 小・中学校で使用する教材備品、教材用品の整備は、教育の質の向上のために不可欠である。近年の物価高騰等により必要な教材備品等の整備ができるよう、今後も学校と協議し、さらに計画的な整備を行う。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	②学校安全の推進	整理番号	Ⅳ－②
基本施策の方針	○ 学校内外の生活の中で自他の生命を尊重し、安全に行動できるための危機予測・回避能力を育みます。 ○ 学校において、機能する危機管理体制を構築するとともに、地域ぐるみの学校安全体制を整備します。		
目標指標	家庭・地域と連携した防災訓練を実施した学校の割合	基準 令和元年度	実績 令和6年度
		小70.6% 中45.5%	小88.2% 中63.6%
			目標 (令和7年度)
			小100% 中100%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 児童生徒の危機予測・回避能力の向上 【学校教育課】	○ 新一年生を対象に交通教室を実施した。（防府警察署と連携） ○ 警察と連携し、少年安全サポーターを配置して巡回訪問など、学校安全体制の整備した。 ○ 各小・中学校で実施している不審者対応訓練に少年安全サポーターとスクールガードリーダーが参加し、指導助言を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 機能する危機管理体制の確立 【学校教育課】	○ 県や市が主催する各種安全教育研修会へ教職員が積極的に参加した。 ○ 市内全ての小・中学校で学校から保護者への携帯メールによる情報配信システムが整備できている。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
(3) 地域・家庭と連携した学校安全体制の整備 【学校教育課】	○ 各校のスクールガード組織の再構築やみまもり隊との緊急連絡体制の確認を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 防災教育と防災管理を一体的に捉えた、学校防災の充実 【学校教育課】	○ 各学校において、地震や津波、豪雨災害等の自然災害や火災を想定した避難訓練を実施した。 ○ また、日時を告げない実践的な避難訓練を実施し、危機回避・危険予測能力の育成に努めた。 ○ 避難訓練を地域と合同で行う学校も増加した。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	14	
		評価	A	
(5) 感染症拡大防止体制の確立 【学校教育課】	○ 日常的な感染予防対策を各学校で実施した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 関係機関や地域等と連携し、安全教育や防災教育を実施することができた。 毎年のように猛暑となっているため、油断なく熱中症対策を行うことが求められる。			

課題及び今後の取組

施策の推進に あたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 不審者等が増加傾向にあることから、各学校での日常の取組を充実させ、さらに児童生徒の自己管理能力と危機管理能力を向上させていくことが重要である。 今後も一人一台タブレット端末にアップロードしたＫＹＴ資料を活用し、危機予測・回避について主体的に学ぶことができるようにする。 円滑な警察等の関係機関はもとより、家庭・地域との連携を深める必要がある。 (2) 学校の危機管理マニュアル等の見直しを図るとともに、防犯研修会や様々な災害を想定した防災危機管理研修会への参加等、様々な安全教育研修会への参加を継続的に促進していく必要がある。小中校長会とも連携を進める。 (3) 今後も、継続的な地域の関係団体や保護者との連携による、学校安全体制のより一層の整備が求められる。 未然に事件事故を防ぐために、スクールガードリーダーや地域・保護者・みまもり隊の意見を取り入れながら、学校安全に関する指導内容を具体的に作成していく。 (4) 地域と連携した訓練が増えており、これからもコミュニティ・スクールの機能を生かしながら、地域と連携したより実践的な訓練の実施について協議していく。 (5) 今後も、各学校において、児童生徒の日常的な健康状態を把握し、適切な感染症対策を講じていく。
---	--

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	③校種間連携・小中一貫教育の推進	整理番号	Ⅳ－③	
基本施策の方針	○ 幼保・小・中・高の校種間の連携を強化することにより、円滑な接続やつまずきの予防に努めます。 ○ 児童生徒一人ひとりの健やかな成長のために学校・家庭・地域が連携し、小・中学校9年間を見通した小中一貫教育を推進します。			
目標指標	中学校区で、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った小・中学校の割合	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 (令和7年度)
		小64.3% 中64.3%	小100% 中100%	小100% 中100%

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績	評価	
(1) 幼保・小・中・高の校種間の連携強化 【学校教育課】	○ 保幼小連携教育研修会等の機会を利用し、小1プロブレム解消のための情報交換の必要性について理解を深めた。 ○ 中1ギャップへの対策として、中学校教員による小学校への出前授業、小学生の中学校体験入学など、なめらかな接続のための工夫をした。 ○ 中・高の連携を図るため、学校相互の授業参観等を行い、相互の情報交換の場を設けた。	到達度	3
		事業効果	4
		効率性	3
		方向性	3
		合計	13
(2) 小・中9年間を見通した小中一貫教育の推進 【学校教育課】	○ 小・中学校の合同研修会等の機会を通して、児童生徒の姿をもとにした共通指導事項を整理し、共通実践した。	到達度	3
		事業効果	3
		効率性	3
		方向性	3
		合計	12
総合評価	●	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）
		想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組とも順調に進められている。 校種間での情報交換を積極的に行うことで、児童生徒の円滑な接続を図ることができた。		

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 今後も継続して、保幼・小・中・高の連携を図るための機会をもつとともに、学校間接続の好事例を参考にしながら、情報交換に努め、具体的な取組について協議していく。 小学校においては、中1ギャップの解消の一助とするため、実施可能な教科において教科担任制を引き続き取り入れていく。
	(2) 小・中学校合同研修会及び学校運営協議会において、共通指導事項の検証や学校課題解決に向けた協議をすることで情報を共有し、より充実した教育活動を推進する。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	④教育機会の確保	整理番号	Ⅳ－④
基本施策の方針	○ 家庭の経済状況による教育格差の改善に向け、経済的支援を通じて、保護者負担を軽減するとともに、意欲・能力のある者への学習機会を確保します。 ○ 家庭環境等の要因による教育格差の解消や地理的制約のある児童生徒に対する就学支援に努めるとともに、様々な困難や課題を抱えている家庭・児童生徒への教育支援を行います。		

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 経済的支援の充実 【学校教育課】	○ 小・中学校への就学に係る経済的な負担の軽減を図るため、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学援助費として学用品費・通学用品費、校外活動費、新入学児童生徒学用品費、修学旅行費、給食費等の補助を行った。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
(2) 修学支援の充実 【教育総務課】	○ 奨学金及び高校入学準備金の周知及び貸付を行った。 新規奨学金 (R7奨学生) 貸付⇒20人貸付 (うち13人は定住促進奨学金貸付者) 新規高等学校入学準備金貸付 ⇒ 17人に貸付 ○ 昨今の物価高騰に対応するため、併用型奨学金制度を創設した。(R8年度貸付から運用開始)	到達度	4	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	4	
		合計	15	
		評価	AA	
(3) 私立高等学校への支援 【学校教育課】	○ 私立高等学校生の地域貢献や私立高等学校の振興充実を図るため、高等学校を設置する学校法人を対象に補助金を交付した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 地理的条件の解消 【学校教育課】	○ 野島小・中学校で実施する「茜島シーサイドスクール」に渡船通学する児童生徒の渡船費用の半額を補助した。 ○ 小規模特認校制度により富海小・中学校へ公共交通機関で通学する児童生徒の公共交通機関での通学に要する費用の半額を補助した。	到達度	3	
		事業効果	4	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
(5) 教育支援の充実 【学校教育課】	○ 障害のある児童生徒、また、障害の可能性のある児童生徒に対しては、教育支援委員会による適切な教育支援を行った。 ○ 就学援助費補助金等により経済的な援助を行うとともに、生活・安心相談員による教育相談、不登校児童生徒に対しては、在宅生徒学習指導員による指導、教育支援センター「オアシス教室」による通室指導を実施し、学習支援に努めた。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組については順調に進められている。 物価高騰に対応して新たな奨学金制度の創設を行った。 引き続き、様々な困難や課題を抱えている家庭や児童生徒に対し、経済的支援や教育支援に努める。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 教育の機会均等の趣旨に則り、経済的な負担を抱えている保護者に対し、継続して必要な支援を行う。また、就学援助制度等の周知に努める。
	(2) 新たに創設した併用型奨学金制度について、効果的な周知を図る必要がある。
	(3) 私立高等学校生の地域貢献や私立高等学校の振興充実を図るため、今後も継続して必要な支援を行う。
	(4) 野島の教育条件の特性を生かした特色ある教育活動を推進する「茜島シーサイドスクール」事業の推進や島の活性化、また、小規模特認校に指定する富海小・中学校または向島小学校へ通学する児童生徒の保護者負担軽減のため、今後も継続して必要な支援を行う。
	(5) 関係機関との連携を強化することにより個に応じた教育支援体制の充実を図る。 教育的支援の必要な児童生徒・保護者に対しては、学校と連携し継続して適切な支援を行う。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	⑤学校における働き方改革の推進	整理番号	Ⅳ－⑤
基本施策の方針	○ 学校行事、各種会議、部活動等の学校業務の見直しを図るため、全国の好事例の紹介、各学校の現状把握と成果・課題の洗い出し、改善策についての協議、指導、進行管理等を行います。 ○ 防府市グループウェアや学校支援人材の活用促進により、業務の効率化を図ります。 ○ 学校担当主事制を活用し、各校の状況について把握し、課題の解決に向けた相談体制を強化します。		

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 業務の見直しと効率化 【学校教育課】	○ 統合型校務支援システムが本格導入され、使い方に教職員が慣れることにより、業務の効率化に大きくつながった。 ○ 会議のオンライン実施を継続的に進めた。		到達度	4
			事業効果	4
			効率性	3
			方向性	3
			合計	14
			評価	A
(2) 勤務体制の改善 【学校教育課】	○ 業務の見直しをするとともに、出退勤管理システムを厳格に運用し、各教職員の働き方を「見える化」することにより、時間外在校等時間の平均が小35.0時間／月（前年度比6.2％減）、中40.3時間／月（前年度比11.8％減）となった。		到達度	3
			事業効果	4
			効率性	3
			方向性	3
			合計	13
			評価	A
(3) 学校支援人材の活用 【学校教育課】	○ 17名の部活動指導員を中学校4校に配置した。 ○ 部活動指導員配置部の部活動顧問の時間外在校等時間について調査を行った。 ○ 高い指導力を持った指導員が、指導法の教授や練習内容の提案を行い、指導経験の少ない顧問の良い研修の機会となった。		到達度	3
			事業効果	3
			効率性	3
			方向性	3
			合計	12
			評価	A
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組とも計画どおり実施できている。 統合型校務支援システムの本格導入や出退勤管理システムの運用改善により、働き方の改善が図られた。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 統合型校務支援システムの運用において、使いにくさを改善していく。
	(2) 時間外在校等時間が月45時間超である教職員の割合が小30.8％、中37.1％である。これを0％に近づけられるよう、更なる業務改善と教職員の意識改革を行う必要がある。
	(3) 成果目標として配置部活動顧問の時間外在校時間を1ヶ月45時間を超えない範囲内とする。配置校において状況調査を実施し、成果目標に対する到達状況の把握に努める。

施策の柱Ⅳ 安全・安心で、質の高い教育環境づくりの推進

基本施策	⑥教職員の資質能力の向上	整理番号	Ⅳ－⑥
基本施策の方針	○ 教職員のキャリアステージに応じて計画的・継続的に資質能力の向上が図れるよう、研修体制を工夫していきます。 ○ 教職員が見通しをもって自ら成長していけるよう、防府市が求める教師像を明確に示し、意識の高揚を図ります。		

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績				評価	
(1) 教職員研修の充実 【学校教育課】	○ 人材育成研修（計9回）を実施し、延べ289名の教職員が参加し、キャリアステージに応じた研修を行った。				到達度	3
					事業効果	3
					効率性	3
					方向性	3
					合計	12
					評価	A
(2) 学校内の人材育成 【学校教育課】	○ 小・中学校の全ての教職員が「防府市人材育成シート」を閲覧し、活用できるようにグループウェアで提示した。 ○ 学力向上推進室長が全ての小・中学校を訪問し、学校経営や授業作りについて指導・助言した。				到達度	3
					事業効果	3
					効率性	3
					方向性	3
					合計	12
					評価	A
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）		
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組については計画通り実施できている。 今後も研修体制の工夫などにより、教職員の資質能力の向上を図ることが求められる。					

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) キャリアステージに応じた研修会を年間を通して開催し、必要なスキルや考え方を学ぶ場を提供する。
	今年度の状況を検証し、次年度計画に向けてオンライン開催を含めて検討し情報を集める。 (2) 学力向上推進室長によるスーパーバイザー訪問を活用し、各学校の課題を明確にした上で、的確な指導助言を行う。

施策の柱Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

基本施策	①文化財の保存		整理番号	V－①
基本施策の方針	○ 文化財の所在場所や性質を明らかにする把握調査を行って記録し、未指定を含む文化財情報の充実を図ります。			
	○ 文化財を継承するために、価値を損なわない適切な修理を行います。			
	○ 文化財保護に関わる地域住民・活動団体との連携を強化します。			
	○ 保存する部分の価値を見定めるため、発掘調査等の文化財調査を計画的に進めていきます。			
目標指標	文化財郷土資料館入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		2,120人	2,419人	3,700人
	英雲荘入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		3,511人	3,676人	4,700人

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 文化財調査の推進 【文化振興課】	○ 民間開発に伴う発掘調査を実施した。〔確認調査13件 緊急調査1件〕 ○ 公共事業に伴う発掘調査を実施した。〔右田小学校体育館増築に伴う確認調査〕 ○ 発掘調査報告書を2冊刊行した。〔令和5年度国庫補助事業発掘調査、周防国府跡既往調査〕 ○ 満願寺所有の未指定文化財の悉皆調査を実施・ほぼ終了し、報告書作成の準備を進めた。加えて秋山家所蔵資料の調査を実施した。 ○ 史跡修理に伴う発掘調査を2件実施した。〔防府天満宮大専坊石垣修理に伴う確認調査、周防国分寺土塀修理に伴う確認調査〕	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 文化財保護活動への支援 【文化振興課】	○ 防府史談会の文化財保護啓発活動に対して補助金を交付し ○ 各地の郷土史研究団体で歴史や文化財に関する講演を行うとともに、調査方法の助言や、協力した活動を行った。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 文化財の保存・管理の充実 【文化振興課】	○ 文化財指定地の保全について、環境整備に係る年間スケジュールを作成することにより、計画的に整備を実施した。 ○ 指定文化財の現地説明板を修繕した。（4件）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 文化財の修復 【文化振興課】	○ 令和5年度の7月豪雨により崩落した、史跡周防国分寺旧境内の土塀修復工事が終了した。 ○ 予定していた周防国分寺二ノ門・土塀修復事業及び防府天満宮大専坊跡修復事業を継続して実施した。	到達度	4	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	13	
		評価	A	
総合評価		想定以上である（優良）		想定より若干下回った（努力）
	●	想定どおりである（良好・順調）		想定より大幅に下回った（改善）
評価コメント	各取組について計画通り実施している。 今後も開発行為にかかる発掘調査と調整を図りつつ、優先順位を定めて文化財の調査を進める必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) 公共工事や民間の開発工事に伴う調査の依頼が断続的にあるものの、限られた人員で対応しなければならないため、人員体制の見直し及び綿密なスケジュール管理により、効率よく調査を進めていくことが必要である。
	(2) 防府史談会が行う文化財の保存活用のための調査研究等の活動に対して今後も継続して支援する。 郷土史研究団体について、地域に密着し多くの活動を行う団体がある一方で、会員の減少や高齢化により活動が難しくなっている団体がある。今後も相談に応じるとともに調査活動への協力や、研究成果の刊行支援等を行っていく。
	(3) 指定地の保全について、年度当初に他のイベント予定などと調整の上、年間スケジュールを作成し、効率的な環境維持と活用につなげる。
	(4) 文化財所有者が現況把握を行いながら、大きな破損がない段階で必要な小修理を施すために、その手順の構築、行政からの適切な連携とアドバイスが必要である。文化財所有者が本格修理に向けて動き出すために必要な技術者の確保・資金の捻出等について相談に応じ、所有者や行政だけでなく、クラウドファンディングやボランティアを取り込む方策などを提案していく。

施策の柱Ⅴ 郷土の文化・伝統の継承と創造の推進

基本施策	②文化財の活用		整理番号	V-②
基本施策の方針	○ 地域の誇りである文化財が、地域づくりに活用できるように、文化財情報の公開を推進します。 ○ 文化財に関わる情報が人とアイディアをつなぐ媒体となるような体制づくりをめざします。			
目標指標	【再掲】 文化財郷土資料館入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		2,120人	2,419人	3,700人
	【再掲】 英雲荘入館者数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		3,511人	3,676人	4,700人
	地域で開催される文化財に関する講座等への 講師派遣回数（年間）	基準 令和元年度	実績 令和6年度	目標 （令和7年度）
		36回	6回	45回

主な取組 【担当課】	令和6年度に取り組んだ内容・実績		評価	
(1) 情報発信の充実 【文化振興課】	○ 展示やイベント情報を随時HPで周知した。 ○ 「防府歴史・文化財読本」を市内全中学1年生及び小中学校転入教員等に配布した。 ○ 英雲荘で、昨年に引き続き9/14～17で観月会を開催し、昼、夜ならではの企画を行うとともに夜間一般公開を実施した。	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(2) 文化財関係施設の整備と活用 【文化振興課】	○ スポット展を4回実施し、集客に努めた。 「周防国府と清少納言」2/1～7/7 「～夏休みれきし探検隊～平安時代へタイムスリップ！」7/20～9/16 「平安時代の精神世界」10/1～11/17 「下右田遺跡発掘調査展」11/30～3/30 ○ ソラール企画展及び県埋蔵文化財センター巡回展を開催した。 ソラール企画展「カガクノミカタ展」連携展示「ドキノミカタ」4/2～7/7、「発掘された山口 山口県埋蔵文化財センター巡回展」11/30～12/28	到達度	4	
		事業効果	3	
		効率性	2	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(3) 文化財を活用した学習機会の提供 【文化振興課】	○ 染物体験を開催（8/7 ソラール） ○ 夏休み親子イベント「勾玉づくり体験」を開催（8/10） ○ インターンシップ受入（3回） ○ 校外学習受入（5回） ○ 出前講座の開催（6回）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
(4) 地域等の歴史文化継承への支援 【文化振興課】	○ デザインの種スクール実行委員会と協力し、親子の焼物体験を実施した。 ○ 無形民俗文化財の継承活動に対する補助を行った。（11団体）	到達度	3	
		事業効果	3	
		効率性	3	
		方向性	3	
		合計	12	
		評価	A	
総合評価	想定以上である（優良）	想定より若干下回った（努力）		
	● 想定どおりである（良好・順調）	想定より大幅に下回った（改善）		
評価コメント	各取組については計画通り実施している。 引き続き、魅力ある取組を企画し、観光分野と連携しながら、文化財関係施設の利用促進や学習機会の提供に努めていく必要がある。			

課題及び今後の取組

施策の推進にあたって 改善すべき項目 ・ 今後の取組	(1) タイムリーな情報をより効果的に発信していく手段を検討する必要がある。 英雲荘がもつ歴史文化的要素にふさわしい活用方法やイベントを、観光振興課等と協力し創出していく。
	(2) 事前の情報発信が遅れぎみであった。計画的な情報発信により、集客力を高めることができると考えられる。 引き続きソラールと連携していくとともに、情報発信の時期と手法を検討していく。
	(3) 総合学習の時間を使った校外学習として、文化財郷土資料館への訪問が定着してきた。 昨年に引続き夏休みのイベントを開催することができた。 体験型の講座やイベントの開催要望が多いが対応できていないため、学校との連携を深め、体験的なイベント開催に努める。
	(4) 焼物を使った地域との連携、文化体験を深めるため、焼物技術保持者と協力して、楽しみながら学べる体験メニューの開発に取り組む。 無形民俗文化財伝承活動への補助金制度をしっかりとPRし、次世代へ継承できる継続的な活動を促していく必要がある。

■ 学識経験者の総評

【学識経験者】

山口大学大学院 教育学研究科 佐々木 司 教授

防府市の教育行政は、各施策のもとで執り行われている主な取組が堅実に行われており、総合的にみて充実した成果をあげていると認められる。特に、施策の柱Ⅲ「一人ひとりがきらめく生涯学習の推進」と、Ⅴ「郷土の文化・伝統の継承と創造の推進」においては、複数の取組が前年度の「B」から「A」へと評価を高めている。

他方、評価が下がったものもある。「生涯学習指導者やボランティアの育成機会の充実」は「A」から「B」になっている。また、評価としては「A」評価にはあるが、総合得点が低下したものがある。例えば、施策の柱Ⅰ「知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進」における「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善の推進、体力向上のための望ましい運動習慣の定着は、いずれも前年度 14 点であったものが 12 点になっている。

以前、基本施策の目標指標と、基本施策のもとで行われている取組の評価、そして総合評価が必ずしも合致していないことを指摘させていただいたことがある。次回の改定時には、できればこれらに整合性があり、評価の理由がわかりやすい制度設計がなされると、点検・評価の信頼性、有用性がさらに向上するように思われる。

以上、制度、仕組みの根本的な部分について意見を述べさせていただいたが、防府市の教育は様々な分野・領域に渡って確実に執り行われている。教育委員会ならびに関連部署、そして何より教育の充実・発展を願い行動されている市民の皆様に敬意を払いたい。